

(仮称)「やまの健康」構想について

1. 「やまの健康」とは

過疎化や高齢化によって、農林業や商業等の担い手が減少している中山間地域等においては、耕作放棄地や放置林が顕在化し、獣害による農作物や生活等への被害も著しく、住民が疲弊するなど「やまの健康」が損なわれている。

このため、住民が自らの地域の周辺環境や地域に必要な暮らしの基盤等を見つめ直し、農地や森林等の維持保全の方法や、地域経済の活性化につながる地域資源などについて検討することにより、中山間地域の活性化を図る必要がある。

そこで、森林・林業・農山村を一体的に捉え、琵琶湖を取り巻く森林・農地が適切に管理されるとともに、農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって経済循環や都市部を含む県民全体との関わりをつくることで、農山村が活性化している姿(「やまの健康」)の実現を目指すものである。

2. (仮称)「やまの健康」構想について

構想では、滋賀県の「やま」の現状と課題の整理、将来の「やま」の姿を描くとともに、その実現に向けた「やまの健康」の理念や方策の共有化を目的に(仮称)「やまの健康」構想を策定する。

3. (仮称)「やまの健康」構想策定の留意点

構想の検討にあたっては、「やまの健康」推進プロジェクトチームの議論や各種調査結果に加え、有識者等からなる懇話会を開催することとし、構想策定に必要な知見について専門家に意見を求めることとする。今年度の構想策定後は、今後の県内の「やまの健康」に向けた事例等を構想に反映させるなど、随時ブラッシュアップを図ることとする。

4. (仮称)「やまの健康」構想策定までのスケジュール

- 6月～7月 「やまの健康」推進プロジェクトチーム会議
- 8月～10月 懇話会(有識者会議)
- 11月 中間取りまとめ
- 12月 構想案完成

やまの健康推進プロジェクト(推進のイメージ)

背景・現状

- ・山村地域では、過疎化や高齢化で農林業の担い手が減少。
- ・農地や森林に手が入らなくなり、荒廃が顕在化、多面的機能低下。
- ・獣害による農林業被害のため、意欲が減退。

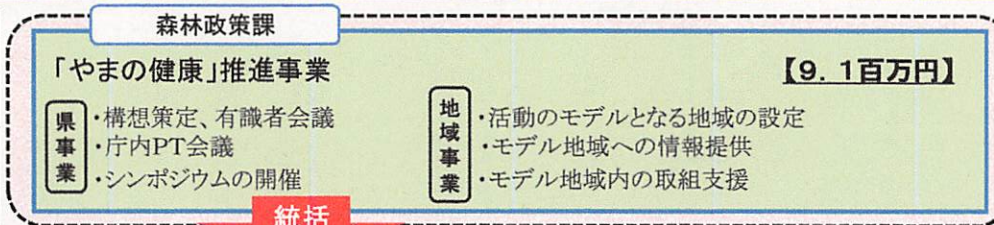
目的

森林・林業・山村を一体的に捉え、琵琶湖を取り巻く森林・農地が適切に管理されるとともに、農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって経済循環や県民全体との関わりをつくることで、農山村が活性化している姿を実現する。

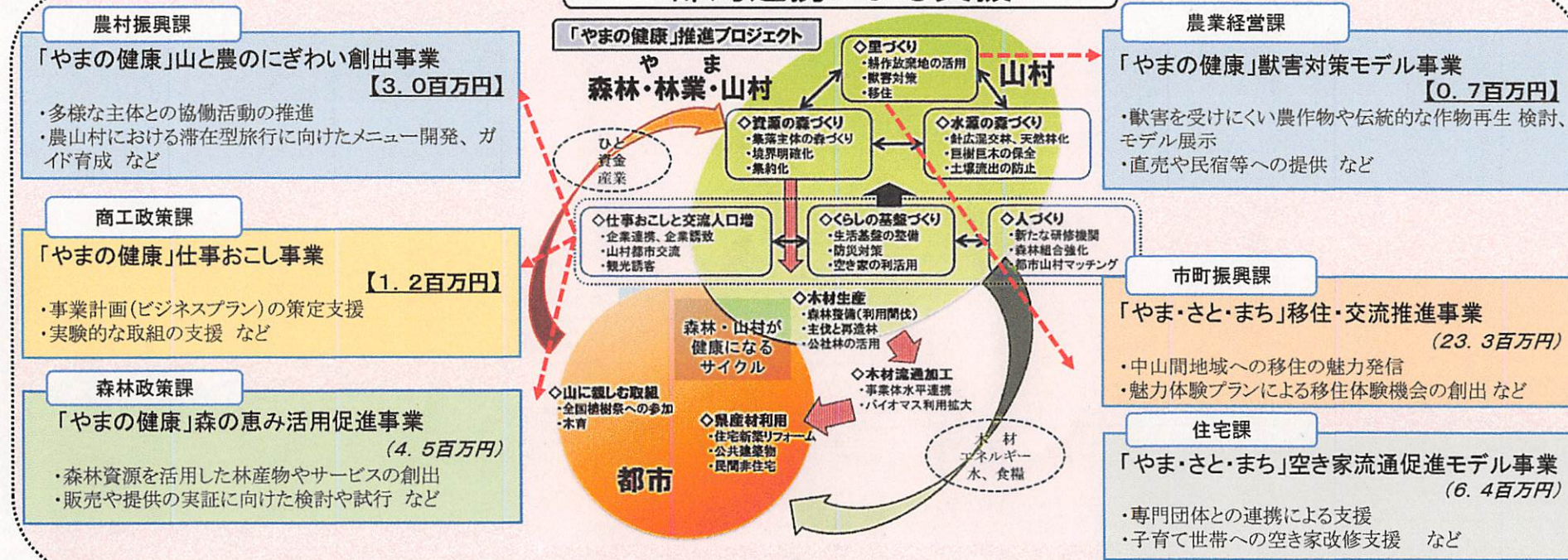
取組

- 「やまの健康」の実現に向けて有識者会議の助言を得て構想を策定するとともに、広報活動を展開して関係者の意欲を高める。(県事業)
- 意欲のある集落を中心にモデルとなる地域を設定し、モデルとなる地域が自ら策定する計画に基づく活動を支援する。(地域事業)

項 目	令和元年度	令和2年度
構想策定(有識者会議)		
広報活動		
モデル地域公募・決定	2地区	3地区
地域の活動計画策定		
地域プラットフォーム運営		
モデル地域活動	R元採択分	R2採択分



部局連携による支援



森林施策に係る新たな取組みについて

—各取組みの位置付けと関係性—

琵琶湖森林づくり条例 (2004制定) ⇒ 2015改正

琵琶湖森林づくり基本計画 (2005～2020) ⇒ 2018改定

【基本方向】 琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりの推進

【基本方針】 ○森林の多面的機能の持続的発揮に重点を置いた森林づくり

【基本施策1 環境に配慮した森林づくりの推進】

→ 森林経営管理法における新たな制度を推進し、放置森林の整備に注力

→ 再造林の促進による森林の適正な更新 「植える→育てる→使う→植える」

【基本施策3 森林資源の循環利用の促進】

○県民全体で支える森林づくり

【基本施策2 県民の協働による森林づくりの推進】

→ 72回全国植樹祭を機に、森林づくりや緑化活動の県民運動を展開

→ 森林の整備、林業の振興と山村の活性化の一体的な推進

【基本施策4 次代の森林を支える人づくりの推進】→林業人材確保・育成

第72回全国植樹祭基本構想 (2017策定)

【開催理念】

ふるさと滋賀の地域特性である「森—川—里—湖」のつながりと、いにしえより培われてきた「森林」、「びわ湖」、「人(暮らし)」のかかわりを再確認し、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、碧(あお)く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいく。

第72回全国植樹祭基本計画

(2018・2019策定～2021)

【開催理念(追記事項)】

(県民が一丸となって森林を「守る」、「活かす」、「支える」ことで、これらを一体的に推進する「やまの健康」につながる本県らしい取組を進めていく。

・苗木のホームステイ、スクールステイ
・19市町による「びわイチ森づくり」
・緑の少年団や林業研究グループ(林業後継者)の育成

・伐る! から始める「びわこ令和の森づくり」プロジェクト
(2019～2021)
(県民総ぐるみによる森林づくり啓発事業の一環)

2021年全国植樹祭にて、5つのモデル地区の取組を「やまの健康」の成果として発表

「やまの健康」ムーブメントの指針
(県民とビジョンの共有を図る)

(仮称)「やまの健康」構想 (2019～)

・「やまの健康」推進事業
・モデル地域における部局連携の各事業

水源の森林
づくりにより
やまの健康
を支える

(市町による)放置林対策の推進

(2019～)

※ 森林環境譲与税の活用

滋賀県基本構想

【みんなで目指す2030年の姿】

(4)環境／未来につなげる豊かな自然の恵み

【政策の方向性】

(4)環境／琵琶湖をとりまく環境の保全再生と自然の恵みの活用
→森林づくりや山村振興を推進

部門別計画

第五次滋賀県環境総合計画

【目指す将来の姿】

琵琶湖をとりまく環境の恵みといのちを育む 持続可能で活力あふれる循環共生型社会

【施策の方向性】

再造林による森林の更新、森林資源の循環の促進・活力ある林業の推進、県産材の安定供給体制の確立と利用の推進、人材の育成確保、森林・山村の活性化

環境施策の
基本的方向性

分野別計画

琵琶湖森林づくり基本計画

調和
見直し

マザーレイ
ク21計画

生物多様性
しが戦略